

## 「人間関係プログラム」 （「HRT」）の実践

さいたま市小・中一貫「潤いの時間」教育特区における「人間関係プログラム（以下「HRT」と呼ぶ）」が、平成17年度2学期から、市立全小・中学校で開始された。

「HRT」実施に伴い行った児童生徒への効果測定に係る予備調査、保護者へのアンケート調査等をもとに考察し、現段階における状況等についての報告を行う。

### 1 「HRT」について

現代の子どもたちは、急激な社会の変化の中で、他の人と接する場や機会が極端に減少している。その結果、本来ならば自然習得すべき、話し上手・聞き上手として必要な基本的なスキルや感情のコントロールの仕方、相手の感情を理解する仕方等、人間関係構築の際に必要なスキル（以下「スキル」と呼ぶ）が定着しにくい状況となった。このことは、「個によってスキルの物差し（スケール）に大きな差があること」にもつながっている。

現に、市民から指導2課に寄せられる苦情・相談の大半は「個によってスキルのスケールに大きな差がある」ことが要因でトラブルへと発展していった事例ばかりである。学校が両者の間に入り苦慮していることがそこから伺われる。

このような実情を踏まえ「HRT」では、各学期の初めに、基本的なスキルを楽しく疑似体験しながら学習し、人と接する際に必要なスキルのスケールを子どもたちに提示していく。また、この時間は、これから始まる学校生活をそのスケールに基づいて行うことを、教師と子ども、子ども相互が共通理解を図る

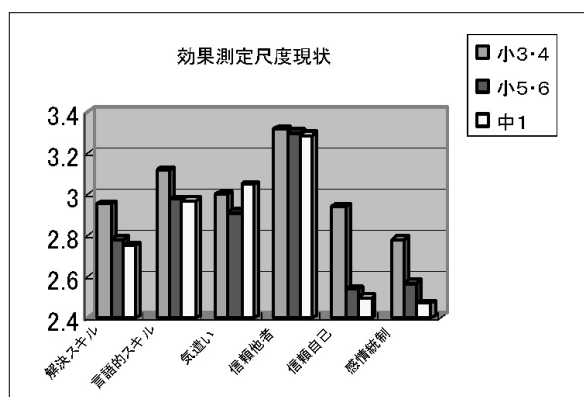
重要な場としての役割も果たしている。

しかし、子どもたちに様々なスキルの定着を図るためには、日ごろの授業を始めとする直接体験の場での指導が最も重要である。

授業における話し合い活動や集会の時間、放課後の友人と接する場面等で共通のスケールに基づいた行動が見られないときにこそ、教師の適切な指導により、スキルの定着へとつながるのである。また、共通となるスケールは、繰り返し提示する必要がある、「HRT」を各学期初めに繰り返し実施するのはそのためである。

### 2 「HRT」実施に伴う予備アンケート

「HRT」実施に伴い、市立小・中学校の児童生徒約1,000名に対して予備アンケート調査を実施した。【グラフ1】

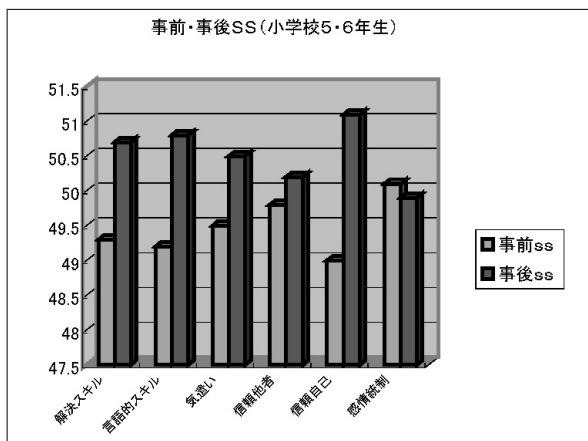


【グラフ1】は、6つの効果測定尺度の学年別指数をグラフに表したものである。

このグラフから読み取れることは、「私のクラスは明るく楽しいクラスです」「私の友達は、私の考えや意見をよく聞いてくれます」などの「他者信頼尺度」がとても高いことである。先生方の素晴らしい学級経営の賜物である。

しかし、「私には他の人にはないよいところがある」「私は、がんばろうと思えば、いつでもがんばれる」といった「自己信頼尺度」は、発達年齢が上がるにつれ下がっている。

【グラフ2】



【グラフ2】は、小学5・6年生の「HRT」実施前と実施後について調査をし、そのSS（標準偏差）をグラフに表したものである。

「クラスの誰とでも笑顔であいさつを交わすことができる」「知らない人とでも、すぐに話が始められる」などの「解決スキル尺度」や、「失敗したときにすぐ謝ることができる」「忙しいときに『手伝って』と言うことができる」などの「言語的スキル尺度」に大きな向上がみられた。また、前記の「自己信頼尺度」が向上しているのも興味深い。中学校1年生でも同様の傾向がみられた。

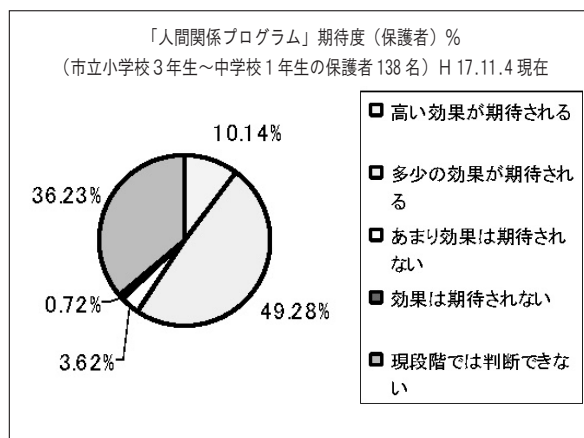
しかし、小学校3・4年生では、「解決スキル尺度」「言語的スキル尺度」「自己信頼尺度」が実施前にも高い数値を示しており、大きな変化はみられなかった。

児童生徒は、発達段階が進むにつれ自己を客観視できるようになることが推測される。

### 3 保護者の意識

「HRT」実施について、小学校3年生から中学校1年生までの保護者138名を対象に、現段階での考えを【グラフ3】脇に示した5つの選択肢で調査した。

【グラフ3】



【グラフ3】は、その調査の結果を表したものである。約6割の保護者がその効果に期待を寄せていることが伺える。自由記述による意見の中には、「子どもの現状を切々と述べられ、「もっと『HRT』の時間を増やすべきである」「専門家による指導を望む」というものもあった。

約4割弱の方は、現段階ではまだ効果があるかどうかは判断できないとあるが、自由記述の中に「子どもたちの人間関係を構築する能力の育成が急務である」という意見が多かった。また、「HRT」の内容についてもっと詳しく知りたいという要望も多かった。

保護者に対する啓発活動が、今後大きな課題になることが伺える。

## 4 最後に

繰り返しになるが、子どもたちにスキルを身に付けさせるためには、「HRT」のみでは実現不可能である。先生方の日ごろの教育活動での指導、さらには各家庭と連携しての指導が必要不可欠となる。また、小・中学校が連携をし、家庭と協力してさいたま市の子どもたち全てが、「人の話をしっかりと聞ける」「自分の意見や考えを、筋道を立て、堂々と述べることができる」ようはぐくんでいきたい。そのことが、基礎学力の定着、コミュニケーション能力の育成につながるものと考えている。